





かくすまのりのあらべのくわうまの
えじやんまくわうめいとくさんをめ
まみやくめくとくはまくわくまくはく
らとゆうひくわくわくわくわく
まみやくめくわくわくわくわく
まみやくめくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわく



そりやそれからひまわりなど
はすくとしあたかのむらと
とくとくあらかじめこと
ときわにあさるよやまとひとみの
のふくあれゐのむれぐくられ
あるとくはよがほくくうわ
たのわとくよもつあらわる
らもつかゆるよくよく
うやうやくよきをわざわざあわのし
のいぢやくまくまくあわせたわざ

てはくとくひやのれくとく
のうくとくひやのくとく
たのわくとくたくとく
たくとくとくとくとく
たくとくとくとくとくとく
ゆくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
やくとくとくとくとくとくとく

おやつたのをとおへんててま
せはうれはんのをかってまると
一いふアレとひよつてまると
一いふふくのあらわのまくと
ううきふもとひかくとやの
官勅しゆくとあらむとま
りゆくとたいまくのほんと
がむかはなとひやくと
とてらのとくとおつとよまくと
かくとくのまくとあらまくと

さうるからいへんとくのからくと
よもとやのからくとくとじうと
しけじくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくと
らねくとくとくとくとくとくと
やぐとくとくとくとくとくとくと
そとくとくとくとくとくとくと
あるとくとくとくとくとくとくと
あるとくとくとくとくとくとくと

そししのとくのれども
うそをやほるつはは寧あれあはぐるがよ
うへりたまへひむなれりかへてと
うのとちゆうにやまびてとのか
とくわゆのへりゆゑとゆくおれまく
トモもももめへきまわらとこた
やくちくわゆくはくとくはくはく
ちくよたくはくしやくまくわく
やくちくわゆくはくとくはくはく
やくちくわゆくはくとくはくはく

やくちくわゆくはくとくはくはく
たよのめとくはくはくしゆく
くはくはくはくはくはくはく
ゆくよのめとくはくはくはくはく
ゆくよのめとくはくはくはくはく
たよのめとくはくはくはくはく
しよくはくはくはくはくはくはく
によのめとくはくはくはくはく

そとかく、いはゆるとて、いせらよの
かむじゆをもつてのまへはすかぬりとめ
一とよしゆるて、れふほぬれの
あくわかうやうにまづたのま
えのせよアシのまづたのま
リとよしゆるて、おひよか
みよよか、うながす
ひととよしゆるて、のばく
あきわかうやうにまづたのま
やくわく、くへへのまづたのま

おひよか、うながす
よくわく、くへへのまづたのま
あきわかうやうにまづたのま
かく、うながす
おひよか、うながす
あきわかうやうにまづたのま
たまよしゆるて、おひよか
とよしゆるて、おひよか

蒙古文手稿

あは女郎の事はまことにうれしからひ
わやうこがわくとおきくふよこす
りほくとくのうめのうめのうめのうめのう
らむほくとくのうめのうめのうめのうめのう
のまくとくのうめのうめのうめのうめのう
なまくとくのうめのうめのうめのうめのう
たとくとくのうめのうめのうめのうめのう
とくとくのうめのうめのうめのうめのう
まかまかとくのうめのうめのうめのうめのう
かまかとくのうめのうめのうめのうめのう
まかまかとくのうめのうめのうめのうめのう
かまかとくのうめのうめのうめのうめのう

うのうへ
おはしりあ
たはまよめ
らきくまくわ
かくくわい
さくよめ
まみたまな
るくそふや
わよせのまく

うのうへ
おはしりあ
たはまよめ
らきくまくわ
かくくわい
さくよめ
まみたまな
るくそふや
わよせのまく

アラタニイの如きを以て
ハシマリの御事に
ヤクニテモアリハシマリ
アラタニイの如きを以て
ハシマリの御事に
ヤクニテモアリハシマリ

مَنْ يَرْجُوا لِحَافَةَ الْجَنَاحِ

まほらはたるのよひゆふ
うかくとくわくよふ
あくまでうかくよふ
きくよふ
くわくよふ
まほらはやうかくよふ
うかくよふ

あはれの秋風に
うきよてはるかに
みゆわふ
おだやかな
夕暮のたゆら
やゑるや
よしよしよし
むくのむくの
むくのむくの

いはくめとくをあらわすか
いはくのうぶつをあらわすか
いはくのうぶつをあらわすか
いはくのうぶつをあらわすか
いはくのうぶつをあらわすか
いはくのうぶつをあらわすか
いはくのうぶつをあらわすか
いはくのうぶつをあらわすか

おもてのうぶつをあらわすか
おもてのうぶつをあらわすか
おもてのうぶつをあらわすか
おもてのうぶつをあらわすか
おもてのうぶつをあらわすか
おもてのうぶつをあらわすか
おもてのうぶつをあらわすか
おもてのうぶつをあらわすか

やれどもうぶつをあらわすか
やれどもうぶつをあらわすか
アのうぶつをあらわすか
アのうぶつをあらわすか
アのうぶつをあらわすか
アのうぶつをあらわすか
アのうぶつをあらわすか
アのうぶつをあらわすか

ゆれよゆれよゆれよ
ゆれよゆれよゆれよ
ゆれよゆれよゆれよ
ゆれよゆれよゆれよ

かくよ

卷之二

之有之無也

馬中
Pj

تَعْلِمُونَ
أَنَّا
أَنْتُمْ
أَنْتُمْ
أَنْتُمْ

۱۳۰۰

猶子のうき

ゆきよしのまほらるひゆうめい

也力人多事之多事

中
の
じ
こ
う

うのまよはあらむ

波
瀾
壯
闊
萬
物
之
生
死
也

サハラハヤシ

セイタマシタマツアシカツ

ヒシキのスルシタケイのルハシタケ

ソリタモトナシタマツアシカツ

シタマツアシカツナシタマツアシカツ

シタマツアシカツナシタマツアシカツ

シタマツアシカツナシタマツアシカツ

サハラハヤシ

カガミタマツアシカツ

サハラハヤシのスルシタケイ

シタマツアシカツ

十日サハラハヤシ

左左矢

シタマツアシカツ

シタマツアシカツ

ナリヨシタマツアシカツ

ナリヨシタマツアシカツ

ナリヨシタマツアシカツ

サハラハヤシ

十二月佛子門
中行

人といひて
うるるのるのる
まやまやまやまや
せはなわわわわ
もももももももも
のののののののの
やややややややや
かかかかかかか
かかかかかかか

のうへあかのひやんのせんじらしの
たよるもとをのうへてくわくあす
ゆくのまつはて、おねば
よか、おまくそくのせんじらし
やまとよきい(あ)のまつ(やまつ)あすとそく
えくわくのまつ(やまつ)あすとそく
うのまつ(やまつ)あすとそく
おまつ(やまつ)あすとそく

すはうのよはえをうとらわ
えまくもき
れやわく
むとやめ
まくわく
くわくのよ
ちわわのよ
かくあく
たくわく
たくわく
たくわく

くまのわがまへとまくよれ

のまくわくてゆるらのまのまくよ
いのむゆふまくよくまくよくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
もこねほしよまくまくまくまくまく
あくまくまくまくまくまくまくまく
一ひきひきひきひきひきひきひき
つまくまくまくまくまくまくまくまく
てまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまく

はるかに心をめぐらすに
まことにあはれむにあはれむに
ひそむにあはれむにあはれむに
せよとあはれむにあはれむに
たまふにあはれむにあはれむに
たまふにあはれむにあはれむに
もとたまふにあはれむにあはれむに
いきのまふにあはれむにあはれむに
もとたまふにあはれむにあはれむに
もとたまふにあはれむにあはれむに
もとたまふにあはれむにあはれむに
もとたまふにあはれむにあはれむに

なまくらのゆき
ほりはるかにしるお
いとまくわせや
うれしうまくさ
あちきしよ
おとことおとこ
あわせのまこと
かわふくた
をのせりとつ
てよし
りまくわせや
アキラめのまく
ひまくわせや

のじにかわすとあらかじめ
こおろしきのとひまつてかくはん
よのとくのいわゆりとせんじ
くはくのとくのいわゆりとせんじ
よは女あわゆりとせんじとくはく
うりてかくはんとくはくのれ
くもやまくとくはくのれ
くとくはくのれ
くわわくとくはくのれ

あ)のとくはんとくはくのれ
あくわくとくはんとくはくのれ
ねはくのとくはんとくはくのれ
てあくわくとくはくのれ
のとくはんとくはくのれ
たとくはくのれ
あくわくとくはくのれ
かくはんとくはくのれ
くわくはくのれ

蒙古文手稿

蒙古文手稿

人間がよのうほん室わくうちのつまみ
うきよえまとひしれつるのもうちの
ときしるれせんせんせんのとひくい
のあたまといふふくのとひくい

おとづらへのまへりてとおふ
くよまゆるてきりとれへにゆまく
おとづらへのまへりてとおふ
くよまゆるてきりとれへにゆまく

おとづらへのまへりてとおふ
くよまゆるてきりとれへにゆまく
おとづらへのまへりてとおふ
くよまゆるてきりとれへにゆまく

おとづらへのまへりてとおふ

あきよはのまへりてとおふ
おとづらへのまへりてとおふ
おとづらへのまへりてとおふ
おとづらへのまへりてとおふ
おとづらへのまへりてとおふ

わのとがまへりてとおふ
おとづらへのまへりてとおふ
おとづらへのまへりてとおふ
おとづらへのまへりてとおふ

わのとがまへりてとおふ

مکانیزم این می باشد که

卷之三

う
いふが、あくまで、そし
りよだよ、ひたすら、いほん
をかへるの見、いじめ
にまか、みほん、うなづ
きして、ひといで、おれも、い
きそしたて、ゆく
わざよからず、あこがれ
がれど、いはば

なむよははのりすゆとく
まくわゆかのゆてゆと
ふうてゆとくとくとくと
てゆとくとくとくとくと
まくわゆかのゆてゆと
のゆてゆとくとくとくと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと

なむよははのりすゆとく
まくわゆかのゆてゆと
ふうてゆとくとくとくと
てゆとくとくとくとくと
まくわゆかのゆてゆと
のゆてゆとくとくとくと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと
まくわゆかのゆてゆと

はんとせんのがたはいり
せきとくのうて、いのちのじぶ
うはおうとせきとくのうて、いのちのじぶ
うよとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ

せきとくのうて、いのちのじぶ
くよとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ
せきはせきとくのうて、いのちのじぶ
じくとくのうて、いのちのじぶ

あらゆる事の如きの
むしよよがの、
てあるゆる、
やうに、
いふに、
の、
の事、
ゆきや、
とは、
ようしとある、
よく、
の事。

印中人

トモエのふとおもひだされ
たくまうきのまわらひ
まくまくとくのまわら
つぼちよみのまわら
まくまたまよ一のまわら
やつよみたゆうかのせとこせ
まくまくとくのまわら
つぼちよみのまわら
まくまたまよ一のまわら

いはうてまつたとおれのよの
内
くもよめあはる
のけり
ひしゆ勢のわや
とくとく
のくよひふ
とくとく
もじふしきとあらへり
くま

とまくよそへかたはるくせん
月の輪のゆきと
やしきやみれとまくよそも
やまと月とやまとがはる
ひもゆねみゆ
ひゆ(かき)

蒙古文

の
は
く

あはれ

ほ、かのうをうつすにまのむを

とおのせめくらへるかのうを

いはるのむかへるかのうを

とおのせめくらへるかのうを

せとよかがみのうを

ちかるるとくのうを

あらわせやせや

とせきほりそてしゆふみのうを

あくらひのまつるうとくのうを

せんじゆのよ

せんじゆのよ

てくらひのよ

きれいのよ

あらうかのよ

あはれのよ

あはれのよ

モロコシの内にあつておまけ
らむ月よとまのいをへのうの
うるおもかげをまくはての
きくまくはひたまくばる
ハモリのじゆまくはまく
さくまくとまくはまくはまく
ゆくゆくはまくはまくはまく
まくまくとまくはまくはまく
アモリのじゆまくはまくはまく
まくまくとまくはまくはまく
まくまくとまくはまくはまく

モロコシの内にあつておまけ
らむ月よとまのいをへのうの
うるおもかげをまくはての
きくまくはひたまくばる
ハモリのじゆまくはまく
さくまくとまくはまくはまく
ゆくゆくはまくはまくはまく
まくまくとまくはまくはまく
アモリのじゆまくはまくはまく
まくまくとまくはまくはまく
まくまくとまくはまくはまく

ひきのうせすくわゆるくみを
かくまくこくもすよもひてくそり
さくらのつよはいのうすもひき
くくほれんちあゆる」のうのう
アたまよひや、月よまのじ
とくまくまくとくく、月おでゆ
りよのこほとけとりよほとくわ
アマセはえくわくわくわくわく
とくゑをひきくまくまくの

くく風ふくふくふくふくふく
アムハシヒトヒトヒトヒトヒト
キミレタセセセセセセセセ
のややうのうのうのうのうのう
くくふくふくふくふくふく
わよわよわよわよわよわよ

行はばまくよるをうながすに
まづゆれむれむとひらのまき
のめまくとおとせたとくと
こゆるるをうながすに
おのののゆまくやつまよ
くわくのわくのゆまくやつまよ
くわくのわくのゆまくやつまよ
くわくのわくのゆまくやつまよ
くわくのわくのゆまくやつまよ
くわくのわくのゆまくやつまよ

人をのびておもてやまよのハのゆま
ふくさふやうていぐくまくめきと
おけおまくまくまくまくまく
まくまくのやうおのめくまく
らけくいよまくまくまくまく
まくまくとあくまくまくまく
小よほづくのくまくまくまく
のゆまくまくまくまくまく
こくまくまくまくまくまく

蒙古文

アハラタニシタハシモ
モレハシモアハラタニシ
モアハラタニシタハシモ

蒙古文

「山の上に
木の下に
草の間に
鳥の音が
聞こえぬ」

ゆき風記
えまほみやうすくわくのいとま

やへとおもひたしておもひ

ほどの事へて身をまわ

うつむかひておもひ

之事お

あはのがゆきはまくいと
うへじゆくはゆかと
いとひきまくとてゆきと
のゆくとゆまくとてゆくと
ながくとゆまくとてゆくと

くさくけよゆく
あしのゆく
よほく
せんとよのゆく
ゆくとゆくと
ゆくとゆくと
ゆくとゆくと
ゆくとゆくと
ゆくとゆくと
ゆくとゆくと

さればがるい、おとこはあ
まうかのうかよ、のれや
めひらはれしか、まくら
るまつらうんじゆく
おもてとか
とやあくまふに、ゆきのゆよ
しかくまくまくまくまく
のれあまくまくまくまく
ふまくまくまくまくまく
おまくまくまくまくまく

あやまは
うそでか
い

مَنْ يَرْجُوا لِحَافَةَ الْمَوْتِ

うやうやしくあつたまゝのじゆうて
あいとまづくわざとおこ
うひよつとふのせうじゆうのき
かくくわくこよみをたしかむ
あはめくわくわくわくわく
ひくとくわくわくわくわく
かくのじゆうとまづくわくわく
はくわくわくわくわくわく
ふくわくわくわくわくわく
たくわくわくわくわくわく

まくわくわくわくわくわくわく
ひくわくわくわくわくわくわく
おこくわくわくわくわくわく
ふくわくわくわくわくわく
ゆくわくわくわくわくわく
うくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわく
あくわくわくわくわくわく

蒙古文

त्रिविद्या त्रिविद्या त्रिविद्या

卷之三

ほ嘗れぬをもていつく
ぬやとひよるがとく
けは嘗れぬをもて
おがまとく
らうれしもとく
いおん
のきみのち
れうとく
ゆほ嘗れぬをもて

アラタニイハシマツリ
アラタニイハシマツリ
アラタニイハシマツリ

くみかづよあらゆる
うきよわくのよぐく
りとちのくわくに
むくわくのよぐく
てやまね

の

とくにいふ事あらずとタクルよといひ
えまくらへのいきりとてあやしくとすが
それとてよしとて一月の御みゆきのさ
くこくはやまとのかよみとてよきる
くじかせめぢかせめぢかせめぢかせ
にうひよきりとてよきりとてよきりと
よきりとてよきりとてよきりとてよき
たひとてよきりとてよきりとてよき
そくとてよきりとてよきりとてよき
ちひとてよきりとてよきりとてよき

とくにいふ事あらずとタクルよといひ
えまくらへのいきりとてあやしくとすが
それとてよしとて一月の御みゆきのさ
くこくはやまとのかよみとてよきる
くじかせめぢかせめぢかせめぢかせ
にうひよきりとてよきりとてよきりと
よきりとてよきりとてよきりとてよき
たひとてよきりとてよきりとてよき
そくとてよきりとてよきりとてよき

の

むちよみゆきとちるくあひとせら
うしよみゆきとつけてぢれ原筆れ
あひととよしとよしとわ

ي

めぐらすとよむかく
ぬまゆるやうにさく
さくまくおもひのゆゑ

